

## 令和7年度第2回亀山市地域福祉推進委員会 議事概要(案)

日時：令和8年3月19日(木) 午後1時30分～

場所：亀山市総合保健福祉センター 2階研修室

出席：長友委員、伊藤委員、笠井委員、佐野(知)委員、小林(智)委員、横山委員、内田委員、渡邊委員、佐野(健)委員、内藤委員、小林(弘)委員、煤谷委員、門間委員、千賀委員、倉田委員、林委員

欠席：塚田委員、高宮委員、大平委員、小林(恵)委員

事務局：開会あいさつ 亀山市地域福祉推進委員会要綱(以下、「要綱」という。)の改正に伴い、新しく6名の方を委嘱任命した旨、要綱第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席があり、会議が成立している旨を報告

事項：

### 1 亀山市地域福祉推進委員会の委員委嘱について

◇新委員の委嘱及び任期について

### 2 亀山市総合福祉計画(仮称)について

#### (1) 亀山市総合福祉計画(仮称)策定の概要について

◇資料1 説明(事務局(市地域福祉課))

[質疑応答]

- 委員長 お気づきの点があれば、ご意見をたまわりたい。いかがか。
- 委員 2ページ右側の欄に「義務」「努力義務」「任意」とあるが、これは何か優先順位を示しているものなのか。
- 委員長 事務局からお願いしたい。
- 事務局 これは優先順位ではなく、法律上その計画が必須かどうかを示したものである。必須とされているものは当然策定するが、努力義務や任意とされているものについても、地域福祉を進めるうえで必要であるため策定する。例えば地域福祉計画は努力義務であるが不可欠であるため策定する。また重層的支援体制整備事業は任意であるが、現状の福祉課題に対応するためには必要であることから、総合福祉計画に含めて推進していく考えである。
- 委員長 他にはいかがか。
- もしあれば、後でいただくことにしたい。

#### (2) アンケート調査結果について

◇資料2 説明(事務局(市地域福祉課、日本開発研究所三重))

[質疑応答]

- 委員長 お気づきの点があれば、ご意見をたまわりたい。いかがか。
- 委員 5ページの「活動しない理由」で「仕事が忙しい」が10ポイント下がっているが、

高齢者で引退している人は当てはまらないのではないかと。回答者の年齢構成はどうなっているのか。

11ページの障がい者施策・高齢者施策の問いについて前回との比較がないが、あれば興味がある。

委員長  
事務局

説明をお願いしたい。

5ページの「活動しない理由」については年齢別の集計は行っていない。調査全体では、回答者の約4割は65歳以上である。一方で、65歳や75歳を過ぎても働いている人も一定数いるため、「仕事が忙しい」という回答が含まれている可能性がある。年齢別のクロス集計を行えばその傾向を確認することは可能である。11ページの設問は今回新たに設定したものであり、前回調査との比較はできないことをご了承願いたい。

委員長  
委員

続けていかがか。

8ページの「相談していない理由」で、「信頼できる人がいない」「相談しづらい」「どこに相談したらよいかわからない」が増えているが、なぜこのような傾向になっているのかが気になる。

事務局

この設問から直接的な理由を特定することは難しいが、調査全体を見ると地域との関係性の希薄化が影響している可能性がある。地域との関わりが弱くなることで、相談できる相手や相談先が見えにくくなっていることが考えられる。回答者数が限定されるが、地域との関わりの有無と「相談していない理由」を分析してみると一定の傾向が見えてくる可能性があるため、参考にしていきたい。

委員長

続けていかがか。

もしあれば、後でいただくことにしたい。

### (3)ヒアリング調査結果について

◇資料3説明（事務局（市地域福祉課、日本開発研究所三重））

〔質疑応答〕

委員長

お気づきの点があれば、ご意見をたまわりたい。

委員長

いかがか。

先に進めるが、もしあれば、後でいただくことにしたい。

### (4)施策体系と基本的な考え方について(案)

◇資料4説明（事務局（市地域福祉課））

〔質疑応答〕

委員長

委員の皆さんから、お気づきの点があれば頂戴したい。いかがか。

委員

たくさん資料を出していただいたが、今回の資料は委員会での検討用なのか、それとも一般市民にも公表される前提なのか。

3分野を統合すること自体は複合的課題への対応として適切だと思うが、会議回数や参加者が減ることで議論の時間が十分に確保できるのか不安がある。実際、本日の会議でも説明に多くの時間が割かれ、意見を述べる時間が限られていると感じている。

福祉においては横のつながりだけでなく、長い時間の中での関係づくりが重要であり、子育て支援や不登校支援の活動の中でも、過去の関係が後の相談につながる事例がある。団体同士が直接つながり、行政を介さずに課題に対応できるようなネットワークづくりや場の設定が必要ではないか。

委員長  
事務局

お答えいただけるか。

資料については、最終的にはパブリックコメントを実施し市民にも公表する予定であり、それ以前の段階でも委員会ごとにホームページで公開していく。

意見交換の機会が少ないという点については課題として認識している。

団体同士の連携についても重要であると考えているが、現時点では具体的な実施時期や方法は決まっておらず、課題として捉えている。

事務局

ボランティアセンター登録団体の交流会やサロン同士の交流会、社会福祉法人連絡会など、横のつながりを意識した取組はすでに行っている。今後もこうした機会を増やしていきたい。必要に応じて相談を受けながら、つながりの場づくりを進めていきたい。

委員  
委員長  
委員

今後に期待したい。また相談させていただく。

続けて、他にいかがか。

高齢化が進む中で、買い物や通院といった日常生活の移動が大きな課題となっている。これまでは近所同士の助け合いで対応できていたが、免許返納の年齢になるとそれも難しくなっていく。「広報かめやま」にも地域交通の話題があったが、福祉の視点から見た交通として、より踏み込んだ検討が必要ではないか。現在、老人クラブ連合会でも約1,000人規模でアンケートを実施しており、今後その結果も踏まえて福祉交通について検討してほしい。

事務局

いただいた意見については、今後アンケート結果なども含めて内容を精査し、計画の中でどのように反映できるか検討していきたい。

委員長  
委員

他に続けていかがか。

市内の外国人の人数を確認したい。鈴鹿市では外国人が1万人を超えており、亀山市でも比率から見ても2,000~3,000人規模と考えられるが、地域との交流が進んでいない。ダイバーシティの観点からも外国人対応は避けて通れない課題であり、計画の中に明確に位置づける必要がある。

3分野統合に伴い、対応する職員体制や組織のあり方が見えにくい点が課題であり、市と社協が連携した体制づくりが必要ではないか。

来年度3回予定されている委員会について、それぞれの到達点や進め方を示してほしい。

事務局

来年度は、5月に骨組み、8~9月に具体化、1月に最終案を示す予定である。

組織体制については課題があると認識しており、社協と連携しながら検討していきたい。

外国人の人数は約2,400人である。

委員  
委員長

ぜひプランに入れていただきたい。

ぜひ反映させていただければと思うが、アンケートの報告があったばかりで、今後ご指摘のことも含めて、会議を重ねることで提案や骨子が明らかになると思う。

他にいかがか。

委員 人手不足に対応するためには、支援する側とされる側を分けるのではなく、支援を受ける人もできる範囲で役割を担う仕組みが必要ではないか。例えば、障がいのある子どもの保護者が、他の障がいのある子どもを支援するなど、新たな支え合いの形を計画に盛り込むべきではないか。

委員長 ご提言である。続けていかがか。

委員 情報が分からないという意見が多いことから、情報を得ている人がどの年代で、どのような経路で情報を得ているのかを把握する必要があるのではないか。資料4ページにある認知症サポーターの養成者数だけでなく、実際に活動に関わっている人の状況も知りたい。

子育てサロンの活動の中で、高齢者と子どもが関われる場をつくりたいと考えているが、団体間で情報が共有されれば連携が進むと感じており、そうした仕組みづくりができないか。

委員長 そろそろ時間だが、どうしてもという方はいかがか。

委員 総合福祉計画は福祉分野の最上位計画として重要であり、各分野の計画を包含しながら、より実効性のあるものとして策定する必要がある。

組織体制の課題については、もう少し明確にしてもらいたい。市と社協の間で整理したうえで進めるべきである。

市総合計画の提案書にも書いた内容なのだが、市民の主体的な活動を支えるための「場づくり」や環境整備が重要であり、外国人を含め多様な人が関われる仕組みを計画の中で考えていく必要があるのではないか。

委員長 総合計画との整合性も詰めていただけたらと思う。次回以降も、引き続きご意見をいただきながら進めていきたい。

### 3 その他

委員長 その他、事務局から何かあるか。

事務局 特にない。

委員長 それでは事務局にお返しする。

事務局 この場で言いづらかった意見などがあれば、3月中にお願いしたい。本日の委員会はこれで終了させていただく。ありがとうございました。

「亀山市総合福祉計画にかかるヒアリング結果まとめ」について、委員会後に頂いたご意見。

## I. 地域ヒヤリング

### 1. 地域における福祉活動について

#### 4. 担い手不足の状況

- ・現役でも担えるようにする。
- ・報酬の確保。

後継者がいなくて困るのであれば、お金を出し合って、有償のボランティアをお願いし、それも無理なら、業務を委託するしかない。お金は、行政も含め、みんなで考えるしかない。

## II. 地域における社会資源について

### 3. 移動支援について

- ・乗合タクシーについて、福祉目的なら、Door to Door が必須。現在の乗合率なら、Door to Door にしても、コストもそれほど変わらない。コストを下げるなら、AIを活用したルート設定にすべき。

・障がいがあると、特性上、福祉タクシーでも、一人では、乗車が困難な場合があり、気の知れた親御さん等のチームでの移動支援が必要。

## III. 分野別の地域課題について

### 2. 障がい者等との関わりの状況

- ・高齢者や障がい者、その家族は支援を受けるだけでなく、できることは支援する側になる。